

宮古市林業振興ビジョン

令和4年3月

宮古市

目 次

| | |
|--------------------------|----|
| 1. 林業振興ビジョン策定の趣旨 | 1 |
| (1) ビジョン策定の目的、性格等 | 1 |
| (2) 計画期間 | 2 |
| 2. 森林資源の概況 | 2 |
| (1) 森林面積・森林蓄積 | 2 |
| (2) 民有林の状況 | 3 |
| ①樹種と面積 | |
| ②人工林 | |
| ③天然林 | |
| 3. 施策の推進体系 | 7 |
| (1) 基本方針 | 7 |
| (2) 施策の推進体系図 | 8 |
| (3) 基本事業の推進方向 | 9 |
| (4) 指標と目標の設定 | 12 |
| 4. ビジョン推進に際して各団体に求められる役割 | 15 |
| <用語> | |
| <資料編> | |

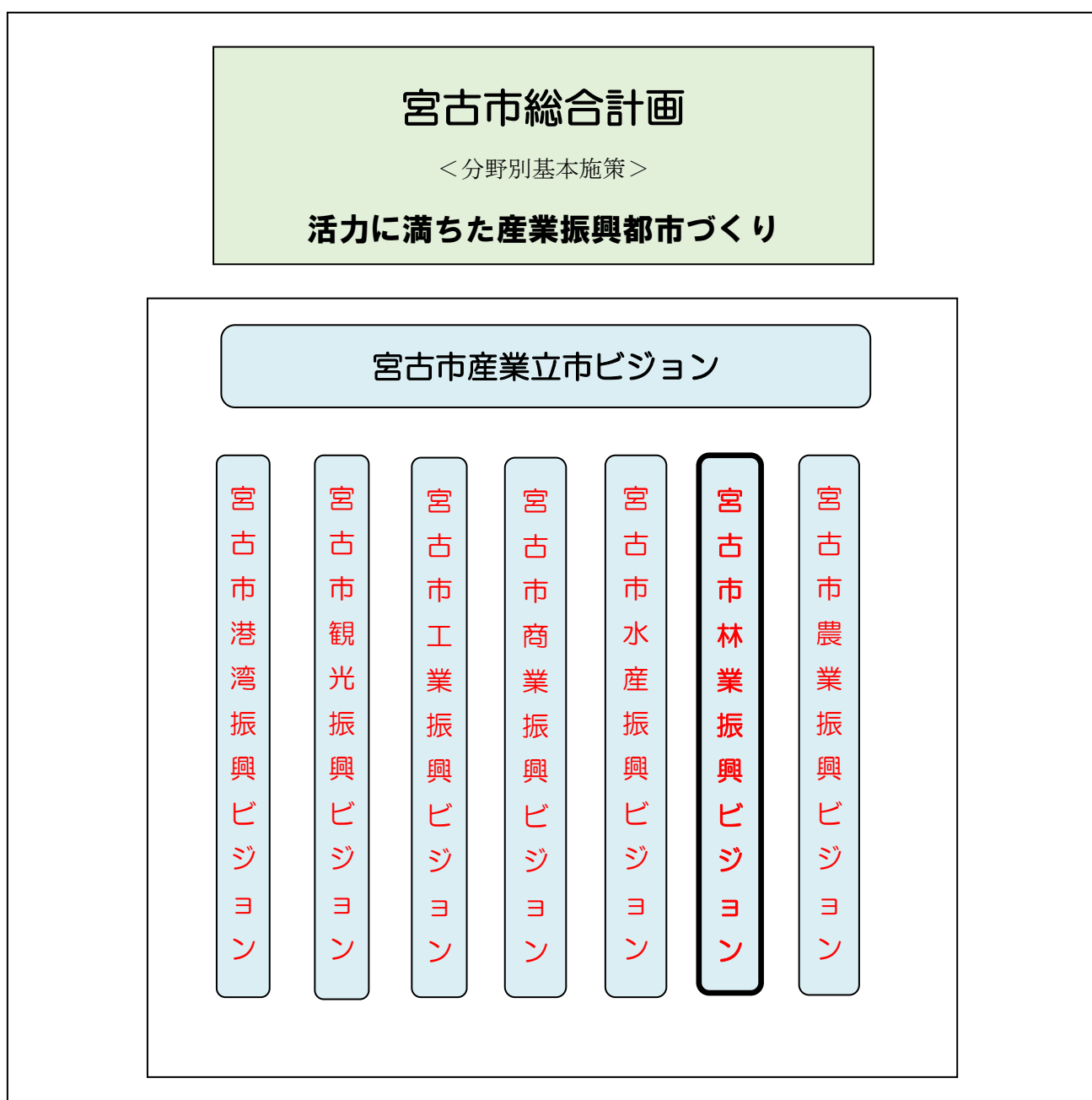
1. 林業振興ビジョン策定の趣旨

(1) ビジョン策定の目的、性格等

本ビジョンは、宮古市総合計画を上位計画とした「宮古市産業立市ビジョン」の分野別計画です。本市の林業分野の施策の方向を示すとともに、各種施策を推進していくための基本指針となるものです。

なお、本ビジョンは民有林（宮古市森林整備計画の区域）を対象としています。

また、宮古市森林整備計画や他の関連する計画などとの整合性を取り、連携を図りながら推進することとします。



(2) 計画期間

本ビジョンの計画期間は、宮古市総合計画及び宮古市産業立市ビジョンの計画期間である令和4年度から令和6年度までの3ヶ年とします。

2. 森林資源の概況

(1) 森林面積・森林蓄積

本市の森林面積は11万5,601haで市の総土地面積の91.8%を占めています。岩手県の市町村で最も広い森林面積となっています。

また、森林面積の約28.5%が国有林、約71.5%が民有林となっています。

<宮古市の森林面積と蓄積>

| 区分 | 面積 | 蓄積 |
|---------|--------------|--------------------------|
| 国有林 | ha 32,998 | 千m ³ 5,755 |
| 民有林 | 82,603 | 16,299 |
| 合計 | 115,601 | 22,054 |
| 市の総土地面積 | 125,915 | |
| 森林の割合 | 91.8 | |

出典:令和元年度版岩手県林業の指標(岩手県 H30 実績)

<県内市町村別森林面積 上位10市町村の状況>

| 順位 | 市町村 | 国有林 | 民有林 | 森林面積 | 民有林の割合 | 総土地面積 | 森林の割合 |
|----|------|--------------|--------------|---------------|-----------|---------------|-----------|
| 1 | 宮古市 | ha 32,998 | ha 82,603 | ha 115,601 | % 71.5 | ha 125,915 | % 91.8 |
| 2 | 岩泉町 | 31,014 | 61,250 | 92,265 | 66.4 | 99,236 | 93.0 |
| 3 | 一関市 | 9,521 | 69,397 | 78,919 | 87.9 | 125,642 | 62.8 |
| 4 | 八幡平市 | 45,942 | 23,194 | 68,686 | 33.8 | 86,230 | 79.7 |
| 5 | 遠野市 | 29,444 | 38,880 | 68,324 | 56.9 | 82,597 | 82.7 |
| 6 | 盛岡市 | 16,848 | 48,100 | 64,948 | 74.1 | 88,647 | 73.3 |
| 7 | 花巻市 | 27,407 | 32,225 | 59,633 | 54.0 | 90,839 | 65.6 |
| 8 | 奥州市 | 23,382 | 34,491 | 57,873 | 59.6 | 99,330 | 58.3 |
| 9 | 久慈市 | 11,413 | 42,222 | 53,635 | 78.7 | 62,350 | 86.0 |
| 10 | 雫石町 | 32,152 | 17,354 | 49,505 | 35.1 | 60,882 | 81.3 |
| | 岩手県 | 388,090 | 783,194 | 1,171,284 | 66.9 | 1,527,502 | 76.7 |

出典:令和元年度版岩手県林業の指標(岩手県 H30 実績)

(2) 民有林の状況

(注意) 岩手県森林資源現況表(令和3年度)を使用したため、前項の森林資源の概況の数値とは一部異なります。

① 樹種と面積

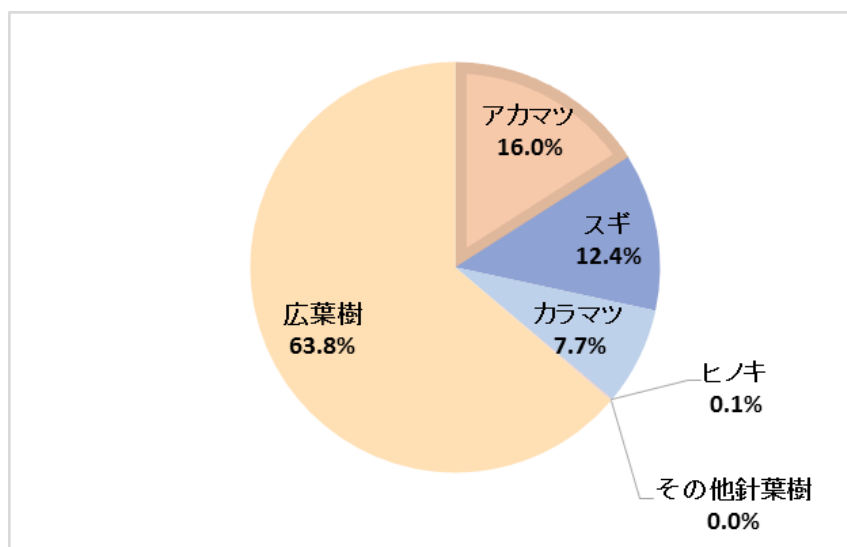
市の民有林の主な樹種と面積は、下表のとおりです。

針葉樹が36.2%、広葉樹が63.8%となっています。広葉樹の中ではナラ類が最も多い樹種です。

<針葉樹と広葉樹>

(単位:ha)

| 針葉樹 | | | | | 広葉樹 |
|--------|-------|-------|-----|-----|--------|
| アカマツ | スギ | カラマツ | ヒノキ | その他 | 50,616 |
| 12,686 | 9,858 | 6,133 | 81 | 35 | |
| 28,793 | | | | | |



出典：岩手県森林資源現況表(令和3年度)

② 人工林

人工林の面積は、2万7,400haで人工林率は33.2%です。

齢級別の構成は、11齢級をピークに9齢級から12齢級が多く、弱齢級と高齢級が少ない構成になっています。

スギの齢級別の構成は、人工林全体とほぼ同じ構成になっていますが、カラマツは、7齢級と13齢級にピークがある構成になっています。

カラマツの齢級別の構成は、かつてカラマツの価格低下等によりスギ等への樹種転換が図られたため8齢級から12齢級が少なくなっていますが、その後、他

樹種における雪害、風害の増加やカラマツの価格上昇により、成長が早く雪害等を受けにくいカラマツの造林が進んだことから、5 齢級から 7 齢級が多い構成になっています。

人工林の蓄積は、8 1 8 万 7, 0 0 0 m³で全蓄積の 4 8. 1 %となっています。

③ 天然林

天然林の面積は、5 万 2, 0 1 0 ha で私有林の約 6 3. 0 %を占めています。

齢級別の構成は、5～7 齢級と 1 2～1 4 齢級が多い構成になっています。

天然林は、戦後の国の拡大造林政策により天然林が伐採され、スギやアカマツ等への転換が図られたことから、8 齢級から 1 2 齢級が少ない構成になっています。

天然林の蓄積は、8 8 2 万 3, 0 0 0 m³で全蓄積の 5 1. 9 %となっています。

<人工林と天然林>

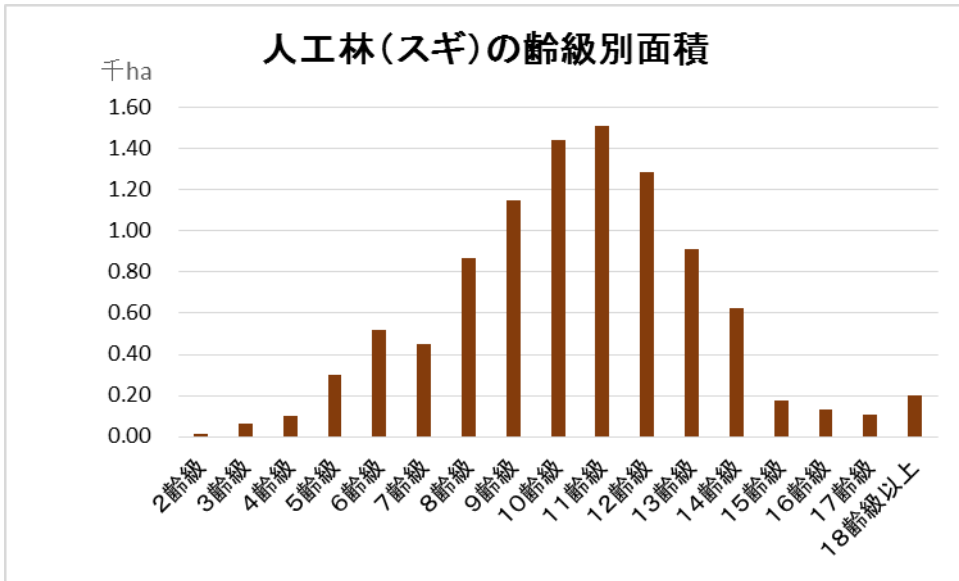
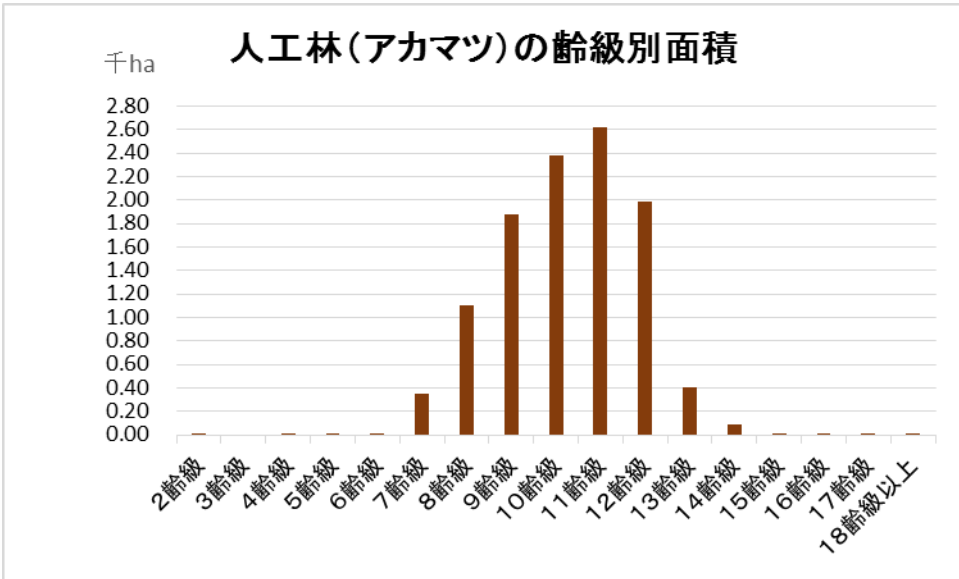
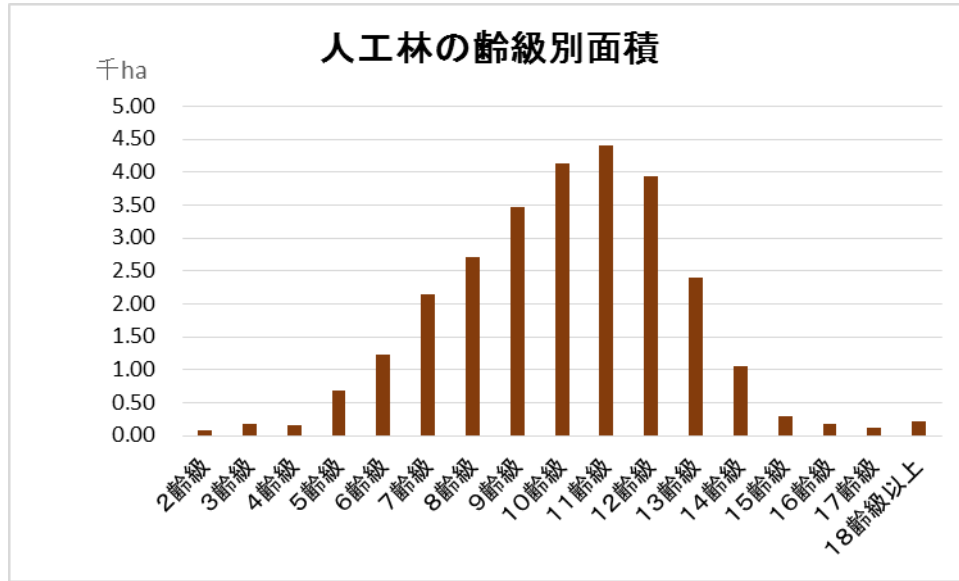
| | 面積 | 割合 | 蓄積 | 割合 |
|-----|--------|-------|--------|-------|
| | ha | % | ha | % |
| 人工林 | 27,400 | 33.2 | 8,187 | 48.1 |
| 天然林 | 52,010 | 63.0 | 8,823 | 51.9 |
| 計 | 79,410 | 96.2 | 17,010 | 100.0 |
| その他 | 3,193 | 3.8 | — | — |
| 計 | 82,603 | 100.0 | 17,010 | |

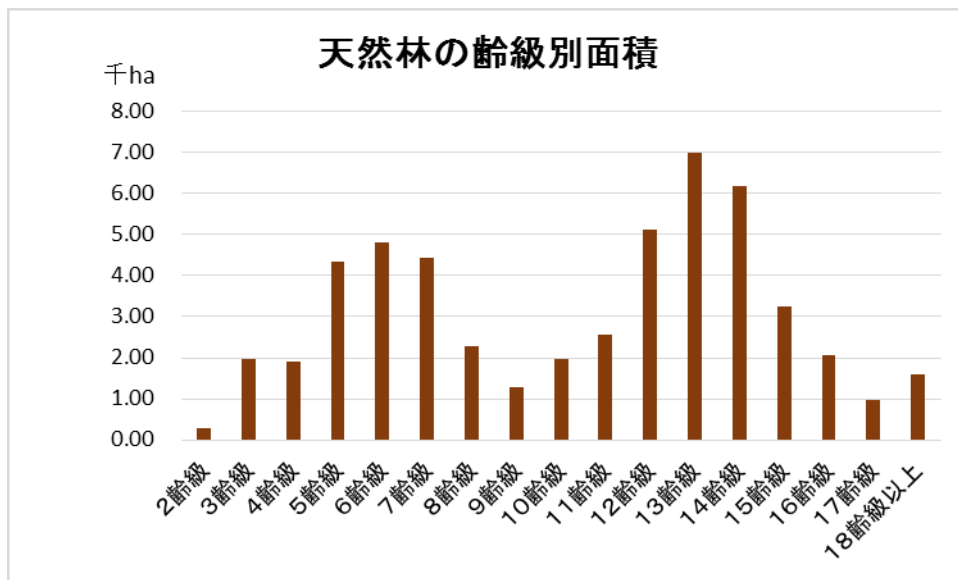
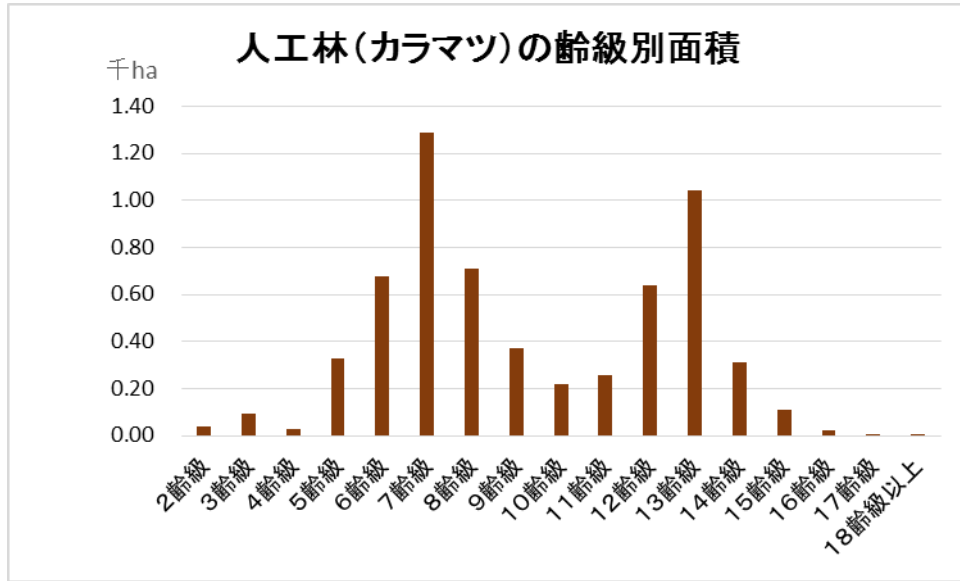
※「その他」は、無木立地、竹林、更新困難地、及び伐採跡地の合計面積

出典：岩手県森林資源現況表（令和 3 年度）



ドローンで黒森市有林から川井方面を撮影





出典：岩手県森林資源現況表（令和3年度）※数値データをグラフ化したもの。

3. 施策の推進体系

(1) 基本方針

国は、平成31年4月に「森林経営管理法」と「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」を施行しました。

「森林経営管理法」は、経営管理が行われていない森林について、市町村が森林所有者の委託を受け経営管理することや、林業経営体に再委託することにより、森林経営の効率化と森林の管理の適正化を促進するものです。

「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」は、パリ協定の枠組みの下における日本の温室効果ガス排出ガス削減目標の達成や災害防止を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から創設されたものです。

岩手県は、平成30年度に策定した「いわて県民計画（2019～2028）第1期アクションプラン地域振興プラン沿岸広域振興圏」において、「低コストかつ計画的な森林整備」、「地域材の利活用の促進」、「特用林産物の産地力の向上」に取り組んでいます。

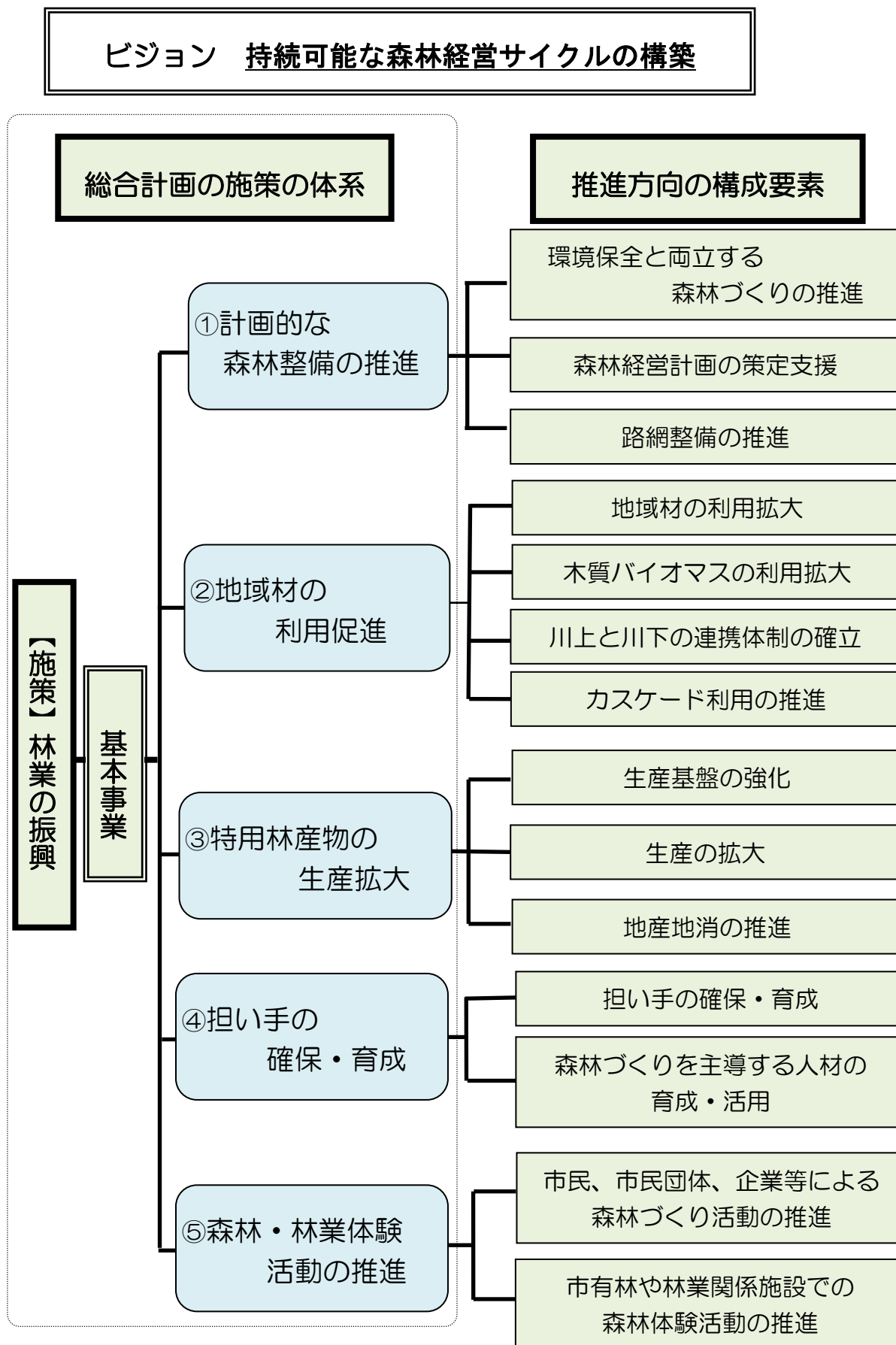
本市は、このような国、県の方針や計画と調和を保ちつつ「豊富な森林資源」と「木材産業の集積」という2つのメリットを生かし、林業の振興に取り組めます。

「持続可能な森林経営サイクルの構築」を林業関係者の共有するビジョンとして掲げ、5つの基本事業を通して目標の達成を目指します。



ヘリコプターから田老の沿岸上空を撮影

(2) 施策の推進体系図



(3) 基本事業の推進方向

① 計画的な森林整備の推進

- 平成31年4月にスタートした森林経営管理制度に基づき、経営管理が行われていない森林の適切な管理に取り組み、森林利用と環境保全の両立を図ります。
- 計画的な森林整備を進めるため、森林所有者への森林経営計画制度の周知を図るとともに、計画策定に必要な林地情報等のデータを提供し、森林経営計画の策定を支援します。
- 持続可能な森林経営を推進するため、森林の保育、伐採、造林の循環利用を図るほか、施業に必要な壊れにくい作業道の整備を進めます。
- ナラ枯れ被害の拡大を抑制するため、森林病虫害の防除に努めます。

| プロジェクト名 | プロジェクト概要 | 主な取組内容 |
|----------|---|--|
| 森林経営管理事業 | 森林の経営管理について、森林所有者から意向を確認し、森林経営に適した森林は林業経営体に、森林経営に適さない森林は環境林としての整備を主眼に市が管理を行う。 | <ul style="list-style-type: none">・森林の計測・解析・土地所有者の意向調査・森林の適切な経営管理 |
| 森林づくり事業 | 森林経営計画の策定を支援するとともに、森林の有する公益的機能の維持及び森林資源を活用する森林づくりを推進する。 | <ul style="list-style-type: none">・森林経営計画策定支援・森林整備への補助金交付 (再造林、間伐、作業道整備等)・森林病虫害の防除 |

② 地域材の利用促進

- 木材の地産地消をさらに進めるため、地域材を使用した木造住宅・建築物への支援を行います。
- 薪ストーブやペレットストーブのほか、小型のバイオマスボイラーなど木質燃料を使用するバイオマス設備の導入を推進します。
- 木材加工の過程で産出される残材のカスケード利用や、保育間伐などで山林に放置されている残材の有効利用に取り組みます。
- 木材産業が集積している本市の特長を生かし、市場性の高い製材品の供給に資するよう情報収集に努め、必要な支援に取り組みます。

| プロジェクト名 | プロジェクト概要 | 主な取組内容 |
|-------------------|---------------------------------------|--|
| 地域材・木質バイオマス利用促進事業 | 豊富な森林資源を有効活用するため、地域材・木質バイオマスの利用を促進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域材利用への補助金交付 ・木質バイオマスのエネルギー利用の推進 |

③ 特用林産物の生産拡大

- 原木しいたけの生産量を増加させるため、ほだ木、種駒、生産設備等生産基盤の強化を図ります。
- 宮古市しいたけ主産地化推進協議会の活動を支援し、原木しいたけの生産拡大を推進します。
- 学校や社会福祉施設での給食のほか、産直施設などでの販売による地産地消を推進します。

| プロジェクト名 | プロジェクト概要 | 主な取組内容 |
|---------------|--|---|
| 特用林産物生産施設整備事業 | 原木しいたけの生産基盤を強化するとともに、原木しいたけの周知を図り、生産拡大につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生産基盤導入への補助金交付（ほだ木、種駒、生産設備） ・産業まつりへの出品支援 |

④ 担い手の確保・育成

- 林業への新規就業を希望する者が、林家や林業経営体で実際に働きながら技術の習得に取り組む「インターンシップ研修」による林業の担い手の育成を推進します。
- 新規就業希望者や森林所有者が林業に必要な知識や技術を習得できるよう、フォーラムや講習会等を開催します。
- 地方への移住に関心がある首都圏在住者等を対象にした移住イベント等に参加し、林業への新規就業に向けた周知を図ります。

| プロジェクト名 | プロジェクト概要 | 主な取組内容 |
|-------------|--|---|
| 林業担い手確保育成事業 | 林業への新規就業を希望する者や森林所有者を支援し、林業の担い手の育成を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新規就業希望者及び研修生受入林家への補助金交付 ・フォーラム、講習会等の開催 ・パンフレットの作成 ・移住イベント等による周知 |

⑤ 森林・林業体験活動の推進

- SDGsに貢献する森林の役割や森林が持つ公益的機能の重要性の理解を深めるため、森林環境教育を実施します。
- 市民の森林への関心を高めるため、市有林や森林施設を活用した森林・林業体験活動事業を森林インストラクターなどとの協働により推進します。
- 市民、市民団体及び企業などの森林づくり活動を支援するとともに、そのフィールドとして市有林を活用します。
- 森林を活用するスポーツツーリズムなどと連携し、交流人口の増加を図ります。

| プロジェクト名 | プロジェクト概要 | 主な取組内容 |
|-------------|--|---|
| 森林・林業体験推進事業 | 市有林を活用し、市民、企業等による森林づくりや森林を活用したイベントへの参画を推進する。 | <ul style="list-style-type: none">・森林環境教育の実施・しいたけ植菌体験等林業体験イベントの開催・森林づくり活動のための市有林の活用・森林を活用したスポーツツーリズムとの連携 |



しいたけ植菌体験の様子

(4) 指標と目標の設定

<ビジョン>持続可能な林業経営サイクルの構築

| 指標名 | 数値の根拠 | 参考(H25) | 現状(H30) | 目標 | 目標年 |
|----------------|----------------|--------------|--------------|--------------|-----|
| 林業純生産額 | 市民所得推計 | 百万円 1,470 | 百万円 1,526 | 百万円 1,570 | R6 |
| 森林経営計画 策定面積 | 森林経営計画 策定面積 | ha 17 | ha 278 | ha 360 | R6 |

【目標の説明】

- ・林業純生産額：総合計画の施策（林業の振興）の指標と目標値の再掲になります。
- ・森林経営計画策定面積：林業の振興全般の指標として設定しました。現状の130%を目標値としました。

①計画的な森林整備の推進

| 指標名 | 数値の根拠 | 参考(H25) | 現状(H30) | 目標 | 目標年 |
|-------------------|-----------------|-----------|-----------|-------------|-----|
| 森林整備面積 | 森林整備補助 事業実績 | ha 125 | ha 355 | ha 462 | R6 |
| 山林所有者への 意向調査面積 | 山林所有者意 向調査面積 | - | - | ha 3,126 | R6 |

【目標の説明】

- ・森林整備面積：総合計画の指標と目標値の再掲になります。
- ・山林所有者への意向調査面積：森林経営管理事業における山林所有者への意向調査面積を指標として設定しました。R6までの意向調査累計面積を目標値としました。対象となる総面積は10,205haです。

②地域材の利用促進

| 指標名 | 数値の根拠 | 参考(H25) | 現状(H30) | 目標 | 目標年 |
|--------------|-------------------|---------|---------|---------|-----|
| 地域材利用住宅建築数 | 地域材利用住宅推進事業実績 | 棟 63 | 棟 31 | 棟 20 | R6 |
| 木質燃料使用設備設置台数 | 木質バイオマスストーブ設置事業実績 | 台 29 | 台 8 | 台 12 | R6 |

【目標値の説明】

- ・地域材利用住宅建築数：総合計画の指標と目標値の再掲になります。
- ・木質燃料使用設備設置台数：薪ストーブ等木質燃料を使用する設備の設置台数を指標としました。現状の150%を目標値としました。

③特用林産物の生産拡大

| 指標名 | 数値の根拠 | 参考(H25) | 現状(H30) | 目標 | 目標年 |
|--------------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 乾しいたけ生産量(生産者1人当たり) | しいたけ主産地化推進協議会調査 | kg/人 118 | kg/人 126 | kg/人 196 | R6 |
| しいたけ生産量 | 同上 | トン 15.7 | トン 11.6 | トン 15.0 | R6 |

【目標値の説明】

- ・乾しいたけ生産量(生産者1人当たり)：総合計画の指標と目標値の再掲になります。
- ・しいたけ生産量：しいたけ全体の1年間の生産量とし、現状の130%を目標値としました。

④担い手の確保・育成

| 指標名 | 数値の根拠 | 参考(H25) | 現状(H30) | 目標 | 目標年 |
|----------|--------------|---------|---------|--------|-----|
| 林業新規就業者数 | 林業新規就業支援事業実績 | 人 2 | 人 1 | 人 3 | R6 |

【目標の説明】

- ・林業新規就業者：数値は当該年度に事業を活用している人数になります。

⑤森林・林業体験活動の推進

| 指標名 | 数値の根拠 | 参考(H25) | 現状(H30) | 目標 | 目標年 |
|-----------------------|-------------------|---------|---------|--------|-----|
| 体験事業等参加者数 | 森林・林業体験事業等の参加者数 | 988人 | 1,249人 | 1,380人 | R6 |
| 森林を活用した企業・NPO法人等との連携数 | 企業・NPO法人との協定・協力件数 | 1件 | 1件 | 3件 | R6 |

【目標値の説明】

- ・体験事業参加者数：総合計画の指標と目標値の再掲になります。
- ・企業・NPO法人等との協定・協力件数：3年間に2件の新規件数を目標としました。



ドローンで黒森市有林上空から宮古湾方面を撮影

4. ビジョン推進に際して各セクターに求められる役割

| 区 分 | 役 割 |
|-------------------|---|
| 森林組合 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林経営計画の策定と推進 ・ 森林所有者への森林経営のノウハウに関するコンサルティング ・ 低コストで高品質な木材生産の指導 |
| 森林所有者 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な造林と森林の持つ公益的機能の維持 ・ 計画的な森林保育 ・ 森林経営計画への参画 ・ 利用間伐や特用林産物生産など経営の多角化 ・ 次世代への所有森林情報などの継承 |
| 素材生産業者 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の維持と環境保全に配慮した生産活動 ・ 森林所有者の持続可能な森林経営に配慮した生産活動 ・ 担い手の育成と低コスト作業システムの導入 |
| 木材加工業者・ 住宅建築業者 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 川上、及び川下間の連携による地域材のカスケード利用の推進 ・ 間伐材など未利用資源の利用促進 ・ 木造住宅などへの地域材の利用促進 ・ 付加価値の高い木材加工製品の開発 |
| 特用林産物 生産者団体 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織活動の活性化 ・ 栽培・製品化技術の向上と担い手の育成 ・ 生産基盤の強化と生産拡大 |
| 市民・各種団体 一般企業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林・林業体験、森林づくり活動、環境保全、地産地消促進などの活動への参加 |